

「春の園芸祭」でパネル展示

平成25年4月28日から5月6日まで、北見市のサンドーム北見で北見園芸協会主催の「春の園芸祭」が開催され、常呂川森林ふれあい推進センターでは、4月29日の祝日に、園芸祭の一角をお借りして、当センターの活動フィールドである「オホーツクの森」を主体に、自然再生モデル事業などのPR活動を行いました。

当日は、曇り空の中、時折雪が降るあいにくの天気であり、しかも、27・28日は各5cmの降雪があるという連休のスタートにしては、春が遠い季節となってしまいましたが、春が待ち遠しい来場者がたくさん来ていました。



自然再生モデル事業で使用しているカミネッコンを観察

そのような寒い中ではありますが、園芸祭に来場された方たちが当ふれあいセンターのパネル展示コーナーにも寄っていただき、「オホーツクの森」の様々な動植物やボランティア団体等の活動、自然再生モデル事業としておこなっている取り組みなどを見に来てもらいました。

園芸に興味を持っている方々が来場されるだけあって、中には山の花にも非常に興味を持っている方もおり、職員より詳しい方もいらっしゃいました。

なかなか春の気配が感じられず、「オホーツクの森」へも林道の雪が融けないため、状況確認ができなく、もどかしく思っているところですが、市民の皆様には、様々な取り組みなどを今後もPR、情報発信に取り組んでいきたいと思っておりますので、今後も気軽にお声かけいただきたく願います。



ラワンのタネの模型づくりを体験